

当院 NICU における極低出生体重児の短期予後の検討

—全国共通データベースとの比較—

井上 真改¹⁾²⁾ 太田 栄治¹⁾²⁾ 森井真理子¹⁾²⁾
瀬戸上貴資¹⁾²⁾ 橋口 千鶴¹⁾²⁾ 堤 信¹⁾²⁾
木下竜太郎¹⁾²⁾ 中村 公紀¹⁾²⁾ 森 聡子¹⁾²⁾
廣瀬 伸一¹⁾²⁾

1) 福岡大学病院総合母子医療センター新生児部門

2) 福岡大学医学部小児科

要旨：過去6年間（2003～2008年）の当院における極低出生体重児（VLBWI）273例の短期予後について検討した。当院の死亡率は15.0%で、全国平均（10.0%）より悪い成績であったものの、前期（2003～2005年）が23.3%、後期（2006～2008年）が5.5%と著明に改善していた。合併症に関しては、当院では呼吸窮迫症候群の発症が全国より有意に多く、動脈管開存症と敗血症、消化管穿孔の発症は有意差がないものの全国平均値より少なかった。治療内容に関しては、気管挿管とPDA結紮術、晚期循環不全に対するステロイド療法の割合が全国より有意に高かった。当院におけるVLBWIの短期予後は、全国成績と比較して未だ満足はいく結果とは言えなかった。今後も定期的なデータ解析を行い、全国に劣るデータの改善を目指していく必要がある。さらに、VLBWIの詳細なフォローアップ体制を構築して、長期予後に関する更なる検討を継続する予定である。

キーワード：極低出生体重児，短期予後，ハイリスク新生児医療，全国共通データベース